

科目名称：	日本事情Ⅱ	
担当者名：	王 迪	
区分	授業形態	単位数
留学生別科に関する科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>「日本語事情Ⅰ」で学習したものを踏まえ「日本語事情Ⅱ」では、日本語表現の向上及び日本文化の理解を目的とします。一年を通したその月々の「旬の素材」を使って、季節感に溢れた行事に触れながら、自然に日本の文化や行事を学んでいきます。さらに、大学へ入学後の授業の受講にあたって支障がないよう、講義に役立つ日本語を学習します。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①日本語の「読み」の力を高める。 ②正課へ入学後の授業の受講にあたって支障がないよう、日本事情に関する幅広い教養を身につける。 ③日本人学生と円滑なコミュニケーションをとることができるよう常識的な日本の文化や習慣を理解する。</p>		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	50	20	30		100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	日本語講師	経験年数：12年

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス/自己紹介	本シラバスを精読すること。	30分
第2回 9月「月見」、月に関する言葉や言い伝え、日本人の月に対する印象を知る。(ディスカッション)	「月見」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第3回 10月「温泉に行こう」、温泉とお風呂に関する言葉、温泉で見かける言葉を知る。	「温泉に行こう」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第4回 11月「〇歳の祝いはどういうの?」、長寿を祝う年齢の言い方を知る。(ディスカッション)	「〇歳の祝いはどういうの?」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第5回 12月「クリスマス・年末大掃除」、日本におけるクリスマスの意味を知る。年末に大掃除をする習慣、汚れている様子を表す表現を知る。	「クリスマス・年末大掃除」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第6回 1月「正月・おせち料理」、お正月の習慣。おせち料理に込められた意味を知る。	「正月・おせち料理」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第7回 2月「節分・受験の忌み言葉」、節分の習慣と鬼の付く様々な言葉を知る。受験シーズンに使うのを控える忌み言葉について知る。	「節分・受験の忌み言葉」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第8回 3月「別れの季節「別れ」」に関する言葉を知る。「贈り物・お返し」に関する言葉を知る。	「別れの季節「別れ」」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第9回 4月「花見」、さくらと付く様々な言葉と、その意味を知る。(ディスカッション)	「花見」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第10回 5月「五月病」、落ち込んだり、元気がないときの表現を知る。(ディスカッション)	「五月病」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第11回 6月「梅雨」、湿気や水分の多いことを表す表現を知る。(ディスカッション)	「梅雨」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第12回 7月「夏」、暑い夏を涼しく元気に過ごすために、日本人がしていることを知る。	「夏」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第13回 8月「着物・浴衣」、日本の着物・浴衣について知る。(ディスカッション)	「着物・浴衣」についてテキストを読み、まとめておく。	30分
第14回 正課へ入学後の講義に役立つ日本語そのⅠ	前回授業後に配布したプリントを学習をしておくこと。	30分
第15回 正課へ入学後の講義に役立つ日本語そのⅡ	前回授業後に配布したプリントを学習をしておくこと。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、予習の課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テストを20%、課題の実施状況を30%で評価する。

課題に対するフィードバック

授業内プリントは評価し返却する。

教科書・参考書

マンガで学ぶ日本語表現と日本文化